

令和7年度
運営に関する計画
(最終評価)



大阪市立聖賢小学校

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○生活指導面では、重篤ないじめ事案がこの12年間において数年周期で発生している。令和3年度当初、学級でのトラブルが小さな火種となり、初動調査・指導及び教員間の共通認識や情報共有・解決への行動連携を欠いた結果、いじめ事案に発展した。今後、いじめ事案を起こさせないための予防指導並びに児童の実態に対する共通認識や情報共有の在り方とその徹底、「いじめを許さない」集団育成の具体的な教育活動をさらに実施していかなければならない。

不登校児童と認められる件数が、令和3年度は13件に増加した。児童自身等の事情による影響が大きい。例えば、スマートフォンやゲームに夢中になることで生活リズムが崩れ、深夜まで起きていることが原因で、朝、起きることができず登校できていない児童が多い。また学校生活の規準になる「生活の約束」を活用し、頭髪の毛染めとピアスに対しては個別指導を強化したことで落ち着きを取り戻したが、新たな児童を出さないための丁寧な指導が必要である。

○「主体的・対話的で深い学び」の授業実現に向けて令和3年度も校内研究を進めてきた。「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合が、年々増加している。

令和3年度からネットワーク環境が完全に整備され、一人一台端末の本格的導入となった。授業時間に有効活用することで、児童の学習意欲が向上し、話し合い活動の一助になっている。自主学習ノートを令和2年度から取り入れ、主体的に児童が学習できる環境を進めた。宿題以外の自主的な学習に取り組む習慣をさらに定着させる。また、学習の定着を目的に授業中や宿題にプリント学習を積極的に取り入れた。小学校学力経年調査の結果向上を促進しつつある。

○体力的に走力の向上と怪我の予防を目的に柔軟性をつけることを目標に取り組んできた。走力の向上を目標に体幹とバランス感覚を身に着ける運動に取り組んだが目覚ましい成果は上がっていない。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現

○令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合 **78.0%以上**にする。

（令和6年度 77.0%）

○令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を **前年度より減少**させる。

（令和6年度 2.82%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

○令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を **38.8%以上**にする。

（令和6年度 37.8%）

○令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和5年度より **2ポイント向上**させる。

（令和6年度 3～5年児童 国語：94.3% 算数：96.2%）

基本的な方向5 健やかな体の育成

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査等における体力合計点の対全国比を男女とも **1ポイント以上向上**させる。

（令和6年度 男子：95.7% 女子：91.1%）

【学びを支える教育環境の充実】

基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- 令和7年度、授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）
(令和6年度 7.81%)

基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- 令和7年度「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を70%以上にする。（基準1：ア、1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること、イ、1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること）

基本的な方向9 家庭・地域等と4連携・協働した教育の推進

- 令和7年度末児童アンケートの「いろいろな国や地域の文化や伝統などを含めた体験型学習を学ぶ機会が多くありますか。」において肯定的に答える児童の割合を75.1%以上にする。
(令和6年度 74.1%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を78.0%以上にする。（令和6年度 77.0%）
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
(令和6年度2.82%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を38.8%以上にする。
(令和6年度 37.8%)
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
(国語：3年100.0%4年99.8%5年96.42% 算数：3年100.2%4年98.5%5年97.3%)
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等における体力合計点の対全国比を男女とも1ポイント以上向上させる。
(令和6年度 男子：95.7% 女子：91.1%)

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を57.7%以上にする。（基準1：ア、1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること、イ、1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること）
(令和6年度 56.7%)
- 令和7年度末児童アンケートの「いろいろな国や地域の文化や伝統などを含めた体験型学習を学ぶ機会が多くありますか。」において肯定的に答える児童の割合を75.1%以上にする。
(令和6年度 74.1%)

3 本年度の自己評価結果の総括

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

○生活指導面においては、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合が83.3%になり、令和6年度より上回った。しかし、いじめ対策委員会で検討した案件が3件あり、昨年より重大事案をかかえていることから、「こころの天気」や「いじめアンケート」から、聞き取りや指導、保護者や教員間の共有を徹底している。

○全校児童に対しての不登校児童に認定した児童の割合が昨年度2.82%から本年度は5.29%と増加した。起立性調節障害など病気やけがで長期休んだ後の教室への復帰が難しい児童が増えたことが要因である。SSRや保健室、職員室などを教室以外の居場所をつくることで、週に2～3日登校できるようになった児童もいる。また教室での学習についていけず、入りづらい児童には、区役所の取組「城東フラット」から家庭教師を派遣してもらい補っている。また学校で共有するだけでなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、心のしんどさや家庭の問題に対応できるようにしている。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答した割合が38%と目標に0.8%達成できなかった。昨年度から引き続き国語科が研究教科でテーマ「交流を通して自分の考えを深める児童の育成」～物語文を通して～だったが、自分の考えを深めることはできるが、交流した友だちの意見や考えを自分と比較したり、広げたりまで到達できなかった。

○小学校学力経年調査における国語及び算数平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較した結果、いずれの学年も前年度よりも1ポイント向上させる目標を、算数は達成できたが、国語は1ポイント向上できなかった。今年度の国語の研究を通して、より一層深い学びにつながるようにしたい。

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点は男子47.7%、女子51.21%と全国・大阪市平均を下回った。特に男子は「運動やスポーツをすることが好き」の肯定的な回答が100%にも関わらず、握力以外は全て下回っていた。結果から体力の向上を図る取り組みが、引き続き必要である。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上は達することができなかった。タブレットの入れ替え作業や毎日の持ち帰り準備のため、使用できない日もあった。ICTの使用年間計画のもと活用が進むようにしたい。

○教員の勤務時間に関する基準1のアに関しても、退勤時間を繁忙期以外は18時30分に設定しているため、大幅に達成できた。定時退勤の日ゆとりの日など退勤時間を今後も改革していかないと、これ以上の成果にはつながらない。またイに関しては、若干数が達成できなかった。働き方改革が、児童のよりよい成長につなげるため、働き甲斐のある職場にすることを忘れてはいけない。

○令和7年度末、児童アンケートの「いろいろな国や地域の文化や伝統などを含めた体験型学習を学ぶ機会が多くありますか」において、肯定的に回答する児童の割合は71.4%で目標に達成できなかった。総合的な学習の時間や生活科で地域学習に取り組み、外部講師による授業を多く取り入れている。今年度より、さまざまな国の文化や言葉に触れる「世界の文化にふれよう週間」も設けた。来年も継続して実施していくことで、肯定的な回答を向上させたい。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を78.0%以上にする。 (令和6年度 77.0%)</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 (令和6年度 2.82%)</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>・教職員の「いじめを許さない」という認識をもとに、児童が安心して教室で過ごせる環境づくりに努める。(いじめ・不登校・問題行動への対応)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心の天気」の入力を1日1回以上する。 ・日々の相談申告機能確認や、毎月のスクリーニングシートの見直しを通して（職員会議開始時前までに入力する）、月に1回の職員会議の場や週に1回終礼の場等において情報共有をする（いじめ対策委員会）。緊急情報は、管理職に報告と共に、その後「職員集合」を行い直ちに情報を共有する（いじめ対策委員会）。重大事案についてはケース会議を行い、対外諸機関等と連携する。 ・学期に1回「いじめアンケート」からの聞き取りを個別に行い、指導を徹底する。特別の教科道徳の授業を活用し、全学級で年3回以上、「いじめを許さない」「仲間を支える」学習を実施する。 ・「いじめ」に関する研修を1回以上開く。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>児童虐待、不登校の兆候をできるだけ早く把握する。(児童虐待等への対応)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心の天気」を活用し、下校時が「雨または雷」が3日以上連続している児童に対して個別で話を聞く場を設定し、職員会議の場や終礼で報告し、各学級担任が児童名や対応の内容を記録する。3日以上連続の欠席で心身の不調や怠惰あるいはヤングケアラーやネグレクト等が疑われる場合、管理職に報告して、家庭訪問を100%実施する。また、定期的に家庭訪問や連絡等を実施する。2・4年生を対象に児童虐待に対する啓発学習を年一回以上実施する。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>○「いじめ」について、教職員の意識が高まり、「いじめについて考える日」「いのちについて考える日」だけでなく、道徳の時間や学習活動においても、人を思いやる心、人権を大切にする心を育てた。児童の言動についても注意を払ったことで、初期の段階で対応することが増えた。その結果、児童も「いじめはいけない、許さない」という心が育ちつつあるのではないかと考える。 (令和6年度 77.0% → 令和7年度 83.5%)</p> <p>○残念ながら、不登校児童は増加してしまった。保護者とも連携しながら、職員室で過ごすことスペシャルサポートルームでの過ごすことなの手立てを打って、自分の教室とは異なる環境下を作っている。不登校とされる児童の思いによりそうために、担任だけでなく教頭やスペシャルサポート支援員が中心となって進めているが、解決策に至っていない状況である。 (令和6年度 2.82% → 令和7年度 5.29%)</p>	

- ①職員会議前までにスクリーニングシートの打ち込み時間を設けた。会議の終わりや週 1 回の終礼では職員間で児童の情報を共有することができた。また、いじめ事案については、適宜「いじめ対策委員会」も開き、早期に対策を立て対応に当たった。
- ②全学級、学期に 1 回「いじめアンケート」を実施し、聞き取りや指導、保護者への連絡などの対応が迅速にできた。また、各学級でもいじめになりそうな事案を基にしたり、道徳の授業を活用したりして、繰り返し指導をしている。また、相談申告機能の使い、早めの対応を行った。
- ※スクールロウイヤーの研修を開き、加害被害の立場から、いじめについての考える時間をもったことで、今後の対策にいかしたい。

今年度の課題を解決するための具体的方策

- 「いじりがいじめにつながる」ことを児童に日常の学校生活において、繰り返し指導していくことが必要である。教職員が「いじめを許さない」という態度を児童の前で、表し続けることが必要であり、児童には、継続して「いじめの学習をすること」「教室に児童の居場所を作ること」「達成感や成就感を持たせること」をしなければならない。
- 教職員が不登校児童が年々増加していることを改めて認識して、学級内の児童同士の関係や児童の居場所や安心できる教室を作っていくにはどうすればよいかを考えなくてはならない。
- ① 終礼の場での児童の情報共有が形骸化しつつあるが、学校全体で児童を見守っていこうとする気持ちが薄れているのかもしれない。会議の時間や教職員が集まる場が限られているため、効率の良い報告の仕方に変えていく必要がある。また、教員の中には、スクリーニングシートの入力をするのが、行政など他機関との連絡に役立てられていることが認知されていない。スクリーニングシートも児童のことを知るための共有資料として活用していく。
- ② 家庭訪問は SSR 等の協力の下で実施している。全く登校できていなかった児童 3 名が、週に 1～2 度登校できるようになっている。給食を食べにくるや短時間でも登校できるようになっている児童もいるが、定着していないため方策を考える必要がある。

大阪市立聖賢小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート2）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を38.8%以上にする（令和6年度 37.8%）。</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 （令和6年度 国語：3年100.0%4年99.8%5年99.2%、算数：3年100.2%4年98.5%5年97.3%）</p> <p>○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等における体力合計点の対全国比を男女とも1ポイント以上向上させる。 （令和6年度 男子：95.7% 女子：91.1%）</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、教員の授業力向上を図る。 （「主体的・対話的で深い学び」の推進）</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員参加の討議会を含む研究授業を各学年1本ずつ実施する。 ・全教員（非常勤講師を除く）が「主体的・対話的で深い学び」の授業改善のために、国語科を中心に公開授業を一回以上実施する。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元に関わる教材やプリント（Navima、東書 Web ライブラリ）を活用し、児童が主体的に学習に取り組むようにする。（「主体的・対話的で深い学び」の推進） <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導において、1・2年生は、1学期以降に単元末の復習で使用し、3年生以上の学年は10単元以上でNavimaや東書webライブラリーを使用する。 	B
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・走る運動への意欲を高め、走力の向上を図る。 （体力・運動能力向上のための取組の推進） <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50m走の記録を年2回測定した結果を記述した個人の記録カードを児童に配付し、走ることへの意欲を高める。 ・校内アンケートの「学校で1日、10分以上体を動かす遊びをしていますか。」の項目で肯定的回答をする児童を80.7%以上にする。 （令和6年度 79.7%）。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は38%で目標の38.8%に達しなかった。</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較した結果、国語は4年100.0%→100.2%、5年99.8%→99.2%、6年96.4%→98.3%と6年以外は1ポイント向上しなかった。算数は4年100.2%→101.1%、5年98.5%→99.7%、6年</p>	

98.4%→100.9%と1ポイント以上向上した。

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等における体力合計点の対全国比は、男子90.0%、女子94.8%で、昨年度より男子は5.7%下がり、女子は3.7%上がった。

① 全学年、2学期までに国語科の研究授業を1本ずつ実施し、全教員参加の討議会を通して、「主体的・対話的で深い学び」への理解を深めた。

② 3～6年生で算数はほぼ全単元 Navima や東書 web ライブラリーを活用した。他教科でも復習に Navima を活用した。冬休みの宿題で Navima を出し、家庭で取り組むことができた。

③ 50m走の記録の結果を記述した個人の記録カードを1、2学期とも児童に配付し、比較させたことで意欲を高めることができた。

年度末の校内アンケートの「学校で1日、10分以上体を動かす遊びをしていますか。」の項目で肯定的回答をする児童が79.2%で達成できなかった。(1～3年生は80.7%以上で達成できているが、4～6年生は75%以下で低い)

元気アップカードに「休み時間に運動場で「日向ぼっこ」や「体を動かす遊び」をすることができた」という項目を入れ、意識づけを図った。

今年度の課題を解決するための具体的方策

国語において、平均正答率の対全国比が昨年度より向上していない学年があり、全学年で「言葉の学習」、3、4年は「読む学習」、5、6年は「書く学習」に課題が見られたので、次年度も引き続き、国語の研究を深めるようにする。また、児童が話し合い活動を通して自分の考えを深め、広げられたと自覚することができるような活動（発問内容の焦点化、交流形態の工夫、交流後に自分の考えを書いて、振り返る時間の確保等）を入れていく。

① 学びから新たな問いが生まれるような発問、対話の構造化に向けた板書の工夫、振り返り、評価など、討議会で共有した手立てを今後の授業改善に活かしていく。また、一人学び（意味調べ、全文シートへの書き込みなど）で自力解決を行い、課題設定や児童の語彙力の強化を図る。ICT機器を活用しながら、グループ交流や全体交流をする時間を増やしたい。

② 今後も Navima や東書 web ライブラリーを活用する。Navima の習熟度データを活用し、つまずきが見られる児童への個別指導や課題提示を行う。

③ 走る運動への意欲を高めるために、今後も走る運動の学習を計画的に進め、かけ足週間やなわとび週間を行い、運動することへの意欲を高めたい。行事とかぶらないよう配慮しながら、なわとび週間を12月、かけ足週間を1月に設定し、かけ足週間の休み時間はかけ足のみの使用にする、目標達成者には合格証や表彰状を渡すなど、より多くの児童が意欲的に取り組めるよう工夫したい。また、クラス遊びの時間を週1回以上行うなど、外遊びの時間を増やすようにする。

大阪市立聖賢小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート3）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く） （令和6年度 7.81%）</p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を57.7%以上にする。 （基準1：ア、1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること、イ、1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること）</p> <p>○令和7年度末児童アンケートの「いろいろな国や地域の文化や伝統などを含めた体験型学習を学ぶ機会が多くありますか。」において肯定的に答える児童の割合を75.1%以上にする。 （令和6年度 74.1%）</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <p>・協働的な学びの実現に向けた取り組み（ICTを活用した教育の推進）</p>	
<p>指標</p> <p>・1人1台端末を利用した交流や発表する機会を各学年において年間低学年2回以上、中・高学年3回以上実施する。</p> <p>・授業後に学習用端末を使用して、1教科以上の振り返りを入力する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <p>デジタル教材や1人1台端末を活用した授業展開等を図る。 （ICTを活用した教育の推進）</p>	
<p>指標</p> <p>・学年における教科指導をする際、デジタル教材や1人1台端末を活用した授業展開を低学年は国語・算数、中学年以上は国語・算数を含む他教科の学習でも実施する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>・時間外勤務時間の削減に努める。（働き方改革の推進）</p>	B
<p>指標 繁忙期を除いて毎日の18時30分（毎週水曜日は18時）の完全退勤を実施する。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>・外部講師による授業の実施（教育コミュニティづくりの推進）</p>	
<p>指標</p> <p>・各学年で体験学習（地域学習や地域の方を交えた学習を含む）を複数回実施する。</p>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数は、年間授業日の14.4%で目標の50%には達しなかった。</p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を57.7%以上にする。アに関しては79.6%で目標を達成しているが、イに関しては若干数みしていない。 （基準1：ア、1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること、イ、1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること）</p> <p>○令和7年度末児童アンケートの「いろいろな国や地域の文化や伝統などを含めた体験型学習を学ぶ機会が多くありますか。」において肯定的に答える児童の割合は71.4%で目標の75.1%に達しなかつた。</p>	

った。

① 各学年で様々な取り組み（自分の気持ちや考えを簡単なイラストや言葉で表現、生活科の「町探検」「図書館見学」や「季節の観察」での交流、国語科や社会科の調べ学習、図画工作科の作品を写真撮影し交流、理科の実験の様子や結果を動画や写真に撮影して共有、体育科での実技の様子を撮影してよいところや改善点を考える、総読ではパワーポイントで班ごとの考えをまとめて発表、複数の教科で発表ノートやパワーポイントを用いてスライドを作成して発表、道徳や体育科での振り返り、らっこたんなどのタイピングアプリを活用）をすることで、児童たちの活用技術が向上し、積極的に取り組むようになり、指標をおおむね達成することができた。

② 全学年において、デジタル教材や一人一台端末を活用した授業展開を実施することができた。
活用内容としては、取り組み内容①で上げた内容や、教員が算数科の数量や図形、計算の考え方、国語科の文章中の挿絵などをデジタル教科書の画面を拡大提示することで、児童は視覚的にとらえることができた。

しかし、児童の端末活用においては、ログインやアプリの切り替えに時間がかかる、端末を使うこと自体が目的になってしまう、紙と鉛筆で身に着けたい「書く・考える」の基礎力が弱くなるなどの点が危惧される。

③ S S S、S S R支援員、S Cスタッフ等の連携により、教材作成や不登校児童への対応の時間が削減されつつある。特にS S Sの教材準備はかなりの時間削減となった。また、会議時間の短縮として、職員会議のデータを事前にP C上で共有し、効率的に業務を進めることができた。さらに、先に予定に見通しを持たせ、仕事に優先順位をつけ、実施する習慣をつけた。その結果、18時半退勤が繁忙期以外で実施できている。

しかし、業務量そのものが多く、加えて児童の問題行動や保護者対応が職員の必要な業務時間を奪い、ほとんどの職員が持ち帰り仕事をしている。

④ 全学年で毎学期1回の栄養指導、1学期の万博遠足、2学期のサイエンスショー、防災訓練、全校オリエンテーリング、交通安全指導、しめ縄づくり、学年別として2年生はせいタンTシャツづくり、歯みがき指導、町たんけん・図書館見学、3年生は校区たんけん、あべのハルカス見学、絵手紙体験、スーパーマーケット見学、サイバー防犯教室、車いす体験、大阪くらしの今昔館見学、4年生は浄水場見学、ごみ焼却工場見学、フッ化物洗口、大阪市立科学館見学、若宮神社講話、サイバー防犯教室、若宮だんじり見学、クリスマスリース作り、5年生はお茶調理教室、非行防止教室、自然体験学習、がもよんプロジェクト講話、タカラスタンダードの事前事後指導、タカラスタンダード見学、6年生はピースおおさか見学、租税教室、修学旅行、オリックスOB選手による夢授業、おくすり教室、歯と口の健康教室と様々な体験学習を実施することができた。

今年度の課題を解決するための具体的方策

○ 全児童が「こころの天気」の入力を毎日必ず実施するようなシステムづくりや、児童が充電や持って来ることを忘れないようにするために、教職員がタブレットを日常的に活用する場面を設定するようにする。

○

○ どの学年も体験型学習は継続して実施していくとともに、普段の教科の学習を通して、いろいろな国や地域の文化や伝統について学ぶ機会を増やしていく。

① 学習したこと、友達の発見や意見で共感したことを絵やスタンプなどの選択形式で答えられるようにする。

学年に応じて、操作練習の時間（I C T支援員が来る日）を設け、児童が安心して端末を活用できる環境を整える。

- ② 教員の画面共有で一斉に操作を確認する。
端末使用は考えることや、書くことの妨げにならないように水準を抑える。
例：導入・まとめ・ふりかえりは端末、思考や記述はノートを活用する。
- ③ 行事・校内業務を絶えず再確認し、改善策を検討する。
(学校行事の内容の見直し、校務分掌の役割の抽象化、学年間での指導教科の交換や教科担任制の導入など)
電話対応等は30分以内になるように、理由と正当性を四月当初に保護者に知らせる。また、話がこじれそうな時や、大きな問題に発展しそうな事案への対応を担任一人に任せるのではなく、複数の教員で対応するようにする。(担任→学年→生活指導部→管理職の順で拡充)
仕事の優先順位をつけて持ち帰り仕事がないよう、仕事内容を精査する。また、学習での作成物を個人の財産ではなく学校の財産としてとらえていけるようにデータの共有をしていく。
- ④ 外部講師の授業中は担任やサポーターが児童の様子を見ながら適宜フォローしていく。また、お世話になった地域の人にお礼状を渡すなど、授業を受けるだけでなく、双方でかかわりを持つ活動を行うようにする。